

■田能村竹田 文人画家。一揆發生に革新的な藩政改革建言するも受け入れられず、致仕して自由の境涯を歩み、巨匠に。

たのむらちくでん
・・・・・・・・1777＝

豊後国竹田村で、_代々岡藩中川家に仕える藩医田能村碩庵の子に生まれる。

少年のころより素読、習字を始め

田沼意次失脚1786＝ 9歳：

寛政改革始・1787＝10歳：藩校由学館に入学。

やがて医業を修めるようになり

松平定信引退1793＝16歳：

オランダ 正月・1794＝17歳：兄と母が死去。この年来竹した唐橋君山の主宰する詩画会に加入。

写楽・・・・・・・・1795＝18歳：嫡子として家の職を継ぐ。

古事記伝・・・1798＝21歳：

*藩校由学館に出仕、医業を廃して学問専攻を藩侯から命ぜられ、のちには頭取となった。当時由学館総裁であつた唐橋君山のもとで「豊後国誌」の編纂が始まるとその御用掛となり、君山に従つて領内を巡視する。この国誌編纂の仕事にまる3年を費すが、_その間、国誌校閲のため江戸へ上り、その途次木村兼葭堂を、また江戸では谷文晁を尋ねる。

蝦夷地直轄始1799＝22歳：

宣長没・・・1801＝24歳：

一九膝栗毛始1802＝25歳：

アメリカ船来航始1803＝26歳：

いざノ来航・1804＝27歳：

青洲麻酔手術1805＝28歳：

いざノ報復・1806＝29歳：

ワジ狼藉・1807＝30歳：

フェートン号事件1808＝31歳：

父が死去。家督を相続。「豊後国誌」を幕府に納本。「填詞図譜」脱稿。熊本、長崎、兵庫、大坂などに赴く。_重症の眼病にかかつて諦めたものの、漢詩文「填詞図譜」刊、帰国。結婚。長男誕生。*本格的に画業を開始。日本で初めて、中国文人画の正統を学ぶことに努め、関西の文人画家を代表する存在となる。「梅花芙蓉図」。以後、九州と京坂の間をつねに旅し、頼山陽、浦上玉堂・春琴父子、篠崎小竹、小石元瑞ら、当代一流の文人たちと交流する。

浮世風呂・・・1809＝32歳：

・・・・・・・・1810＝33歳：

ゴロブニ拿捕1811＝34歳：

高田屋拿捕・1812＝35歳：

浮世床・・・1813＝36歳：

漢詩文「竹田莊詩話」成る。_国誌編纂のため領内をくまなく巡視することが竹田に領民の姿を正しく認識させることになったのか、「栄貴万年図」。_城下に一揆が勃発するや革新的な建言書を藩に提出、百姓に対する不当な扱いを批判。_ふたたび一揆が起きるや2度目の建言書を提出、両度とも受け入れられず、随筆「山中人饒舌」成る。「雁来紅群雀図」。*職を辞し、以後、一文人墨客の徒として自由の境涯を歩む。

水野忠成老中1818＝41歳：「卜夜快語」をまとめる。

英船浦賀来航1822＝45歳：「黄檗紀行」をまとめる。

・・・・・・・・1826＝49歳：

日本外史・・・1827＝50歳：

シボム事件・1828＝51歳：

シボム追放・1829＝52歳：

富籤流行・・・1830＝53歳：

富籤三十六景1831＝54歳：

鼠小僧磔・・・1832＝55歳：

天保大飢饉始1833＝56歳：

高島砲術・・・1834＝57歳：

滑稽+人情本1835＝58歳：

相変わらず九州、京坂方面への旅に出て交友。_長崎に1年ほど滞在した際、_多数の中国画を見て衝撃を受け、一時は筆を折ろうとしたが、木下逸雲の助言で立ち直り、「松泉清聴図」「梅溪閑居図」、_雲泉岳図巻など一連の作品を生む。「暫游日記」をまとめる。多くの出版作業で一時体調をくずす。随筆「屠赤瑣瑣録」成る。「船窓小戯帖」。頼山陽が帰郷するのを送り、舟を浮かべて遊んだ情景を写した「稻川舟遊図」、_泡茶新書三種」「今才調集」を刊行。「亦復一楽帖」、頼山陽の訃報を聞く。「暗香疎影図」「歳寒三友双鶴図」「梅花書屋図」と、_次々傑作。「山中人饒舌」初版完成し、藩主に献上。病を得て没した。